



舟渡小だより

令和7年12月1日

令和7年度

12月

板橋区立舟渡小学校
校長 相澤 紀夫

志村五中・舟渡小 響き合う学びのエリア

舟渡小学校の「かわまちづくり」学習

副校長 松川 清

先日は、学習発表会を多くの保護者や地域の方々、日頃から本校児童の教育活動にご協力いただいている方々にご参観いただきました。本当にありがとうございました。児童が体験を通して学んだことや教科書での学習をもとに学びを深め、まとめて伝える様子を観ていただけたと思います。

さて、現在、国土交通省で実施されている「かわまちづくり」制度に板橋区が防災の要素をプラスして、誰でも安心、衛生的、快適に河川が利用できる「板橋区かわまちづくり計画」が登録されました。

本校でも、「板橋区かわまちづくり」に関わる学習として、11月に4年生が国土交通省荒川下流河川事務所の災害対策支援船「あらかわ号」に乗り、荒川ロックゲートを通船し、荒川知水資料館まで乗船しました。子どもたちは、船の中になぜ机があるのかという質問から「あらかわ号」で災害対策会議が開かれることを知ったり、普段は見ることができない川からの堤防の様子を見たりすることができました。それにより、荒川知水資料館で学んだことを自分の体験として感じ、社会の時間に学んでいる防災について、「荒川の河川地域では昔から災害が起きていることを生かしてしっかりと対策がされていて安心だ。」という感想をもったり、もっといろいろな工夫が知りたくて家族でも知水館に行ったりし、学びを深めることができました。

また、6年生は、荒川河川事務所と日本生態系協会のご協力の下、環境学習とEボート体験を行いました。荒川の動植物や水質を調べる活動では、環境保全について荒川の歴史や生き物について改めて関心をもったという児童もいました。災害時に物資や人員輸送をするEボートの乗船体験を通じては実際災害が起きたときのことを想定し、日頃の準備をしなければならないという感想をもった児童も多かったようです。

3学期には5年生が2学期から始めている防災学習について日本生態系協会と物流センターのご協力により災害避難場所や防災備蓄倉庫、災害対策ヘリポートなどを見学させていただく計画もされています。

このように、これからも体験活動を通した舟渡小学校の「かわまちづくり」学習を進めていきます。

